

発表 ②



「日本教員養成課程でJFスタンダードを生かしている
現状と課題～モンゴル国立教育大学事例～」

D.ボルマー (モンゴル国立教育大学)

日本語教員養成課程でJFスタン ダードを生かしている現状と課題

/モンゴル国立教育大学事例/

D.BURMAA
2018年10月6日

1

内容

1. 外国語教員養成カリキュラム /日本語/
2. 日本語教育の現状
3. 日本語指導法とJFスタンダード
4. 今後の課題

2

1.外国語教員養成カリキュラム

1.1 日本語コース略歴

- 1998年 日本語翻訳者養成カリキュラム
- 2006年 日本語翻訳者・日本語教員養成カリキュラム
- 2007年 日本語教員養成カリキュラム
- 2014年 外国語教員養成カリキュラム

3

1.2 カリキュラム根拠

- 1) 高等教育機関で教員を養成する専門方針・インデックスリストに「教員、日本語」が入った。「教育文化科学省大臣2010年5月20日235番決定に」
- 2) 本学で「教員、外国語」カリキュラムを実施することになった。
- 3) 「JFスタンダード」に基づいて、モンゴルの初中等日本語教育スタンダードを作成し、実施し始めた。そのため、本学ではこれらのスタンダードの理念を理解して、実施する知識・能力をみにつけた人材を育成する必要性が高まった。

4

1.3 外国語教員養成カリキュラムの目的

教育活動を各学習者の特徴にあわせて、科学的に行う基礎知識や能力を身につけ、それを実践させたいという心を持ち、自分や学習者を継続的に成長させたいと考える教師。

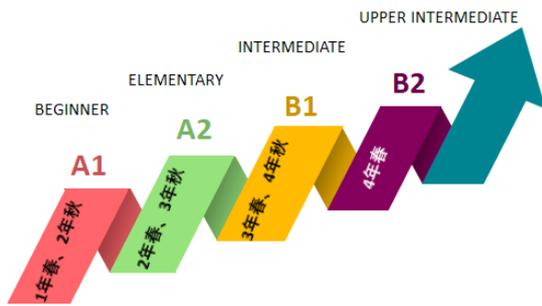
5

1.4 外国語教員養成カリキュラムの目標



6

1.5 学年とレベル



7

1.6 科目・単位①

科目	必修科目		選択科目		合計		
	単位	%	単位	%	単位	%	
基礎科目	17	14.1	4	3.25	21	17.5	
教職関連科目	35	29.2	4	3.25	39	32.5	
専攻専門科目	言語学	5	4.1	4	3.25	9	7.5
	日本語	45	39	4	3.25	49	40.8
	卒業試験／論文	2	1.6			2	1.6
合計	104	87	16	13	120	100	

8

1.7 科目・単位②



9

2. 日本語教育の現状

日本語教育目的：B2レベルの課題遂行のための言語コミュニケーション能力を身につけ、異文化を理解する。

課題・特徴：

- 49単位
- 7学期 (1年春スタート)
- ゼロスタート (地方からの新生が多い)
- 教員養成課程 (モンゴルの初中等日本語教育スタンダードを理解・実施)

10

2.1 課題解決に向けて：

1. 運用能力を重視し、各課の到達目標を考えた。
2. 科目間の横と縦の関連性を考えた。
3. 各学期で日本語を学ぶ単位数を同じにした。
4. 主教材を『できる日本語』に変え、副教材として日本語能力試験用の教材を使い始めた。
5. 異文化を理解してもらうためには日本事情だけではなくほかの科目(読解・聴解・文学など)の内容も考えた。
6. 課題遂行能力を身につけてもらうために教えるすむのではなく使って成果物を出すまでに持っていくよう努力しています。
7. 日本語指導法のシラバスにJFスタンダードやモンゴル小中日本語教育スタンダードの内容を取り入れた。
8. 日本語指導法での模擬授業に『できるモン』を使用し始めた。

11

2.2 専攻専門科目(日本語)・単位

学年	学期	レベル	必修科目	選択科目	単位
4年生	春	B2	翻訳実践2、日本語論Ⅱ③	日本語・文化学2、翻訳技術2、評価法2、学習者研究法2	⑦
	秋	B1	作文Ⅲ①、日本語論Ⅰ③、文学①		⑦
3年生	春		A2	会話Ⅴ②、読解Ⅳ①、聴解Ⅳ①、作文Ⅱ①、日本事情2	⑦
	秋	文法Ⅳ②、会話Ⅳ②、読解Ⅲ①、聴解Ⅲ①、作文Ⅰ①		⑦	
2年生	春	A2	文法Ⅲ②、会話Ⅲ②、語彙Ⅱ①、読解Ⅱ①、聴解Ⅱ①	⑦	
	秋		漢字Ⅱ①、文法Ⅱ②、会話Ⅱ②、語彙Ⅰ①、読解Ⅰ③、聴解Ⅰ③	⑧	
1年生	春	A1	発音①、漢字Ⅰ①、文法Ⅰ②、会話Ⅰ②		⑥
	秋				
総単位			45	4	49

12

2.3 学年と教材



13

2.4 到達目標に向けた各科目の目標

読解ⅠⅡⅢⅣの到達目標を例に

読解Ⅰ	初級程度の日常的な話題・場面でやさしく書かれた短い文章を読んで内容を理解し、そのことについて自分の考えを表現し、案内やお知らせを読んで必要な情報を探し出すことができ、日本について知る。
読解Ⅱ	初中級程度の日常的な話題・場面でやさしく書かれた短い文章を読んで、内容を理解し、そのことについて自分の考えを表現し、案内やお知らせを読んで必要な情報を探し出すことができ、日本について知る。

14

読解Ⅲ	中級レベルの解説やエッセイ・手紙など文章を読んで内容が理解し、そのことについて自分の考えを表現し、広告やパンフレットなどから必要な情報を探し出すことができ、日本について知る。
読解Ⅳ	中級レベルの一般的な話題に関する文章を読んで内容を理解し、そのことについて自分の意見を表現し、知らせや利用案内・グラフなどから必要な情報を探し出すことができ、日本について知る。

15

2.4 異文化理解を目指して

読解Ⅱ 3年秋学年(水・2時間目)

『できる日本語準拠楽しい読みもの5 5 初級&初中級』 ページ82・83

課	学習項目	学習目的
3	a.日帰りバスツアーに行こう! b.おふくろの味って何?	今、人気のバスツアーに関する情報を得る。 日本の家庭でよく作る料理について読み、日本とモンゴルのお袋の味の違いを理解する。

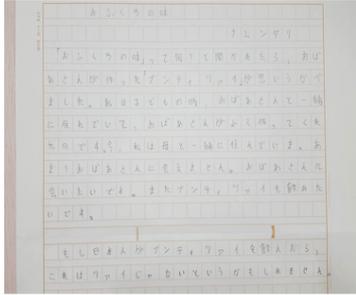
16

2.5 成果物を出すまでに持っていく努力

読解Ⅱ 第3課 「おふくろの味って何？」 活動例

1	読む前	<ul style="list-style-type: none"> おふくろというのは何ですか。 意味を考えながら読みましょう。
2	読む	<ul style="list-style-type: none"> 味噌汁、煮物、肉じゃがの写真を見せる。 1回読んだら、読んでわかったことを話す。 言葉の意味をチェックして、もう一回読む。 理解するまで繰り返す。
3	読んだ後	<p>①質問に答える</p> <ul style="list-style-type: none"> 「おふくろの味」は何ですか。 日本人が「おふくろの味」だと思う料理のベスト3は何ですか。 <p>②皆さんにとって「おふくろの味」は何ですか。紹介してください。</p>

17



「おふくろの味」って何？と聞かれたら、おばあさんが作った、「ブンテイツイアイ」が思いかべました。私は子どもの時、おばあさんと一緒に住んでいて、おばあさんがよく作ってくれたのです。今、私は母と一緒に住んでいます。あまりおばあさんに会えません。おばあさんに会いたいです。また、ブンテイツイアイも飲みたいです。

もし、日本人がブンテイツイアイを飲んだら、これはツイアイじゃないというかもしれません。

18

3. 日本語指導法とJFスタンダード

日本語指導法Ⅰ	2年春学期	3単位
日本語指導法Ⅱ	3年秋学期	3単位
観察実習	1年(秋・春)	1単位
模擬実習Ⅰ	3年秋学期	3単位
授業実習Ⅱ	3年春学期	3単位
教育実習	4年秋学期	4単位

19

インタビュー①

対象：日本語指導法の先生

期間：9月25日

- Q1：教授法の授業でJFスタンダードをどのように紹介していますか。
 T：日本語指導法のシラバスに4時間(2コマ)が設定されています。スタンダードやスタンダードの木を説明したり、紹介したりします。
- Q2：スタンダードの考えに基づいた授業を実践の場でどのように指導していますか。
 T：模擬授業を学生が3回ぐらい行います。1回目はペアで準備して同級生に実践し、2回目は1人で準備して同級生に実践し、3回目は1人で準備して後輩に実践するようにしています。

20

Q3：教育大学と実践校とのスタンダードに対する共通理解をどのようにはかっていますか。

T：実習生の授業の観察し、その授業がスタンダードに基づいて行われているかどうかを実習生と実践校の指導教員と本学の指導教員で検討会を行う。その場を通して、共通理解はできていると思います。

Q4：教育実習校をどう選びますか。

T：モンゴルの小中など日本語教育スタンダードに基づいて作成された『できるモン』教科書を主に使っている学校で国立学校を選びました。

21

インタビュー調査②

質1：JF日本語教育スタンダードとは何ですか。いつ、どのようにべんぎょうしましたか。

学生1：日本語指導法の授業で、JFスタンダードを勉強しました。そのとき、スタンダードの木を学んで、どうして木であらわしたと思うか、木の根や枝・葉では何を示しているか話したりしていました。JFスタンダードは外国語として日本語を学ぶためにすぐ役に立つものだと思います。

学生2：日本語指導法の授業で、JFスタンダードを勉強しました。能力試験と比べてレベルの区別がなくて、実力や運用能力を大事にしたものだと思います。C2レベルはあらゆる分野での言語能力を求めるものだと思います。

22

質2：Can-doについてべんきょうしましたか。じぶんでCan-doを作ってみたことがありますか。

学生1：『できるモン』のCan-doを見て習いました。そして、そのCan-doを達成するための教案を作って、模擬や実践授業をしました。自分でCan-doを作ってみたことはありません。

学生2：授業を教える前にCan-doを紹介したら、どんなことを勉強するかわかって、やりやすいと思いました。

学生3：『できるモン』のCan-doを見て習いました。Can-doを作成して見たことができました。うまくいかなかった。

23

4. 今後の課題

- カリキュラムやシラバスを認定する委員会の中で「運用より理論が大事だ」と考える人が多い。そのため、授業目標をJFスタンダードに基づいて定義しても、直さざるを得なくなる。
- 授業改善に努力してはいるのですが、Can-doや評価シートを作成し、使用するスキルはまだ足りなく、評価はあまりされていない。今後、Can-doや評価シート作成に力を入れていく必要がある。
- 日本語指導法でJFスタンダードを紹介したり、説明したりしてはいるが、知識不足や実践不足。今後、教科書分析や授業実践を通してスタンダードの理解を深めたい。
- 卒業生の能力差があって、N1合格した学生もいれば、N3をまだとっていない学生もいる。

24

ご清聴ありがとうございます。

25



配布資料の補足

1. 外国語教員養成カリキュラム

- ・ 教育大学で日本語コースを始めたのは1998年。ただし当時は教員ではなく翻訳者を養成するカリキュラムだった。その後、2006年(翻訳者・教員養成)、2007年(教員養成)を経て、2014年から外国語教員養成カリキュラムを実施することになった。
- ・ 当カリキュラムは6つの外国語(英語、日本語、ロシア語、ドイツ語、韓国語、中国語)全てで同じ目標と内容になっている。
- ・ 学士課程の卒業には120単位(基礎科目21単位、教職関連科目39単位、専攻専門科目60単位)が必要。基礎科目は2年生の終わりまで、教職関連科目は3年生の終わりまでに履修し終わり、専攻専門科目である日本語は1年生後期から4年生にかけて履修する。

2. 日本語教育の現状

- ・ 日本語教育の目標はB2レベルの日本語能力を身につけさせること。教育大学には田舎出身の学生が多く日本語はゼロから始める学生が大半であり、49単位という少ない日本語授業の中でB2レベルを目指すのは非常に大変。
- ・ もう一つの目標は、初中等日本語教育スタンダードを理解した教育ができるような日本語教員を養成することで、そのための授業も多い。
- ・ 主教材として、1年生後半と2年生前半では『できる日本語初級』、2年生後半と3年生前半では『同初中級』、3年生後半と4年生前半は『同中級』を使用している。4年生後半は特に決まった教材はなく、卒業試験に向けた準備や、自律学習を行っている。
- ・ 日本語コースの目標を達成するために、各科目の目標もたてている。学年(授業)が進むにつれて目標も難易度を上げていく。
- ・ 読解の授業であっても、ただ読むだけではなく、できるだけ最後に何か成果物が出せるような授業にしている。

質疑応答

Q1. E.バトジャルガル先生(モンゴル国立大学)

教育大学の学生が、教育実習先で実際に『できるモン』を使って、どのような感想を言っていますか。

A1. D.ボルマー先生

『できるモン』のような構成で授業をするととてもやりやすいし、生徒にとってもいいことに気付いたと言っていますが、一方で、自分で教案を作るときとても困っているようです。例えば、『できるモン』では、導入部分で生徒から話を引き出す必要がありますが、それがうまくいかず、どうしたらもっと話してもらえたのか、授業の後で悩んでいることが多いです。

Q2. E.バトジャルガル先生(モンゴル国立大学)

教育実習に出るまでに、大学で『できるモン』を使っていますか。